

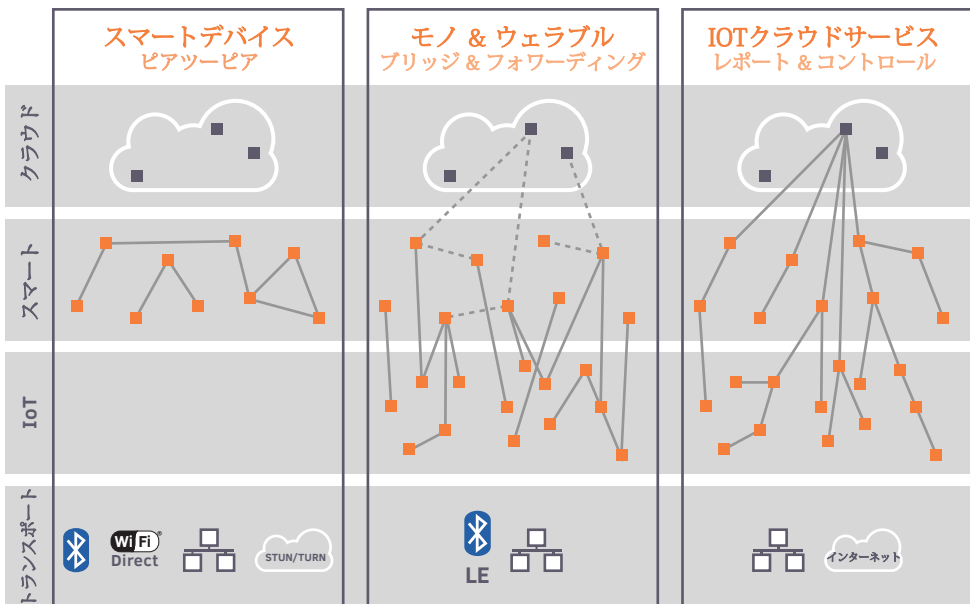
IoTivityへようこそ

IoTivityは、オープン・コネクティビティー・ファウンデーション (OCF)が仕様を定義し、Linux Foundationが主催しているモノのインターネットのための通信フレームワークです。

クラウドネイティブ・アーキテクチャ そしてモノのインターネット

OCFは、業界で唯一IoT向けのクラウドネイティブ・アーキテクチャを開発者が実装できるよう、正式な仕様書を発行しています。

クラウドネイティブ・アプリケーションは、多数のマイクロサービスから構成されています。それぞれのマイクロサービスはRESTful APIで定義され、プロビジョニングコードがソフトウェアコンテナに含まれ、有効期限がひとつのクライアントとのやりとりだけに限定されています。このような技術的な実装により、大規模なスケーラビリティを可能にしています。



柔軟かつ非常にスケーラブルなリソースモデルを使用するモノのインターネットのための通信フレームワーク



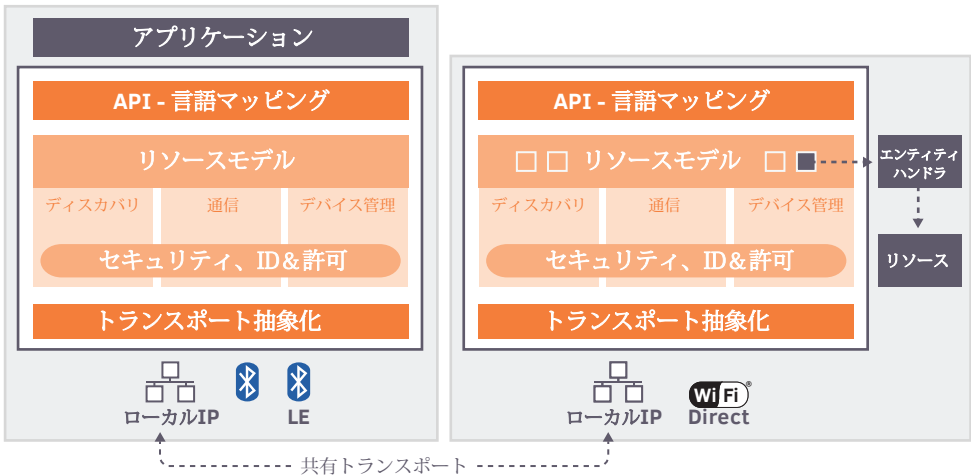
1
ディカバリと
接続



2
セキュリティ、
ID、許可



3
接続管理



1. ディスカバリ: デバイス検出のための共通な方法 (IETF CoRE)
2. メッセージング: デフォルトとして制限付きのデバイスのサポート (IETF CoAP) とプロトコル変換
3. 共通リソースモデル: データモデル(リソース)を使った実世界の実体の定義
4. CRUDN : Create、Retrieve、Update、Delete、Notify命令を使った簡単なリクエスト/レスポンスのメカニズム
5. デバイス管理: ネットワーク接続の設定とリモートによる監視やリセット、再起動の機能
6. ID&アドレッシング: OCFのエンティティ(デバイス、クライアント、サーバー、リソース)のIDとアドレッシング
7. セキュリティ: ネットワークの基本的なセキュリティ、リソースに基づいたアクセス制御、キー管理など